

### 第3回 丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会

日時 令和2年1月24日（金）

19時00分～21時53分

場所 丹波市役所本庁舎 2階中会議室

出席者（敬称略・順不同）

○委員 大野亮祐委員、谷水ゆかり委員、畑道雄委員、中川優一委員、中川フェ  
テレウォルク委員、大木玲子委員、谷川昌幸委員、高永徹委員、山下淳委員、  
岡絵理子委員、足立昌彦委員、北山芳明委員、荻野祐一委員

※欠席：北村久美子委員

○丹波市 鬼頭哲也副市長

（事務局）近藤政策担当部長、清水総合政策課長、山崎総合政策課副課長、荻野  
総合政策課政策係長、小谷本総合政策課政策係主幹

#### 1 開会

#### 2 副市長あいさつ

#### 3 協議事項

- (1) 第2期丹波市人口ビジョン（案）及び第2期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略  
（案）について【資料1】【資料2】【資料3】

※事務局より説明

- (2) 質疑・意見

第2期丹波市人口ビジョン（案）について

会長： 現状の市の合計特殊出生率は1.61であり、目標条件の合計特殊出生率の2.07は  
かなり難しい数値かと思うが、どうか。

委員： 国の現状は合計特殊出生率は1.412。市のほうが0.2くらい合計特殊出生率が高  
い。国の人口ビジョンでは合計特殊出生率を1.8を目指す中で丹波市は全国平均  
より高い出生率であり、国の底上げがある程度功を奏してくれば市の合計特殊出  
生率にも良い影響を与えるのではないかということでこの数値を出してきている。

会長： 国の 1.80 は希望出生率ですね。出産を希望する人の希望を叶えられる社会になれば、1.80 になるだろうという数値。これを市におとしたらどうなるか気になる。

市の希望出生率はいくらか。

事務局： 国全体でしか示していない。

委員： 28 ページの表の 2020 年の合計特殊出生率は確定数か。

事務局： 国勢調査が基になっているため、2015 年までの過去の傾向から推計して 2020 年の数値を出している。推計値になる。

副市長： 現状は 1.73 より低いと思う。

会長： 出生率を上げると同時に出産可能年齢の世代の母数を増やさないと人口は増えない。

副市長： 長い目で自然増は見えていく必要がある。母数を増やすことが重要である。いかにその年代を社会増でもっていくか。

委員： 福知山市の女性が戻ってきている要因はなにか。

事務局： 現時点で福知山市の第 2 期総合戦略や人口ビジョンでのそのあたりの分析がまだできていないため、とれていない。自治体の持っているデータでないと福知山市でなぜこんなに回復しているのかというのはとれない。合計特殊出生率も高い。男女の戻りがほぼ同じなのは全国でもあまりない。地理的状況、都市圏との近さ、市が持っている女性を引きつけるなにかがあるのだろうというのは傾向としてはわかるが、これというところまではわからない。

会長： 福知山市の合計特殊出生率と女性が 20 代で戻っている理由がわかれば丹波市でも取り入れていくべき。

委員： 福知山市とは 3 市連携でしっかり連携している。良いところは情報共有してもいいのでは。しっかり共有して情報収集をしたほうが市の施策にとってもいいことだと思う。

委員： 社会減を 75%回復するとあるが、その考え方は。数の回復なのか、一度市外へ出た人を戻すのか。

事務局： 数の回復を目指す。

委員： 市外から入ってくる女性を増やす必要がある。男性のほうは卒業後に家を継ぐという意識があり、戻ってくる。女性は都会に行ってしまうのは仕方がない。丹波に嫁いできてもらう。独身の 20 代～30 代が丹波市に来るのはなかなか難しいのでは。

会長： そのあたりは次の総合戦略とも絡んでくるので、そこで議論をする。

## 第2期丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略（案）について

委員： 2060年の将来像の4つの基本目標は決定事項か。それをする手段も決定事項か。

事務局：基本目標は決定事項で、手段は本日決める。

委員： 「高齢者、障がい者、女性、外国人」ということを書くより、基本目標2に「女性」という言葉を入れてはどうか。数値目標も女性の就業率になっているので、基本目標と数値目標があっていないのでは。内容を読んでも男性のことを言っているのか、女性のことを言っているのかわからない。先ほどの発言にもあるように女性に対する期待が親にしてもまったくない。女性は好きに生きて、男性は残ってほしいというところがあって期待されていないことを知っているので、好きなところに行く。でも今はそんな時代ではないので、男性も女性もないので、そんな考えが表に出ないような施策をつくってほしい。あえて言うなら、「女性」と書いてはどうか。

また、自治協議会の役員に女性は何%入っているのか。

副市長：今ここに数値は持ち合わせていない。

委員： 女性を大事にする丹波市というのをどれだけいっても足りない。

委員： ターゲットが基本目標の取組をみるとぼやけている。私たちはターゲットを決めたらそこに焦点を当ててどうターゲットに近づくかという手立てを考えるが、全体的なつくりが物足りない。残念な感じがする。ターゲットを10代～30代にするのもひどすぎる。若い元気な女性をターゲットにするのか、子育てしている人をターゲットにするのか、都会の人を丹波に呼んでくるのか、そのあたりの議論がしたい。

委員： ターゲットというのはもう少し絞り込んで大胆な施策をする必要がある。今までもいろんな目標を掲げて施策を取り組んでいるが、満べんなくきれいに少しずつ取り組んでおり特徴がない。丹波市らしさがどこにあるのか。41,000人が達成できるのか。女性と一括りにされているが、どんな人を呼び込むのかももう少し絞り込むほうが施策も打ちやすいのでは。この内容で目標人口が達成できるのか不安に感じるところもある。

委員： ターゲットを絞るということで、案であるが、最初に焦点を当てる対象であるということ言われた。自然増と社会増をうまく連動させるためには活躍人口となる見込みが高い社会人経験のある力のある女性をターゲットを絞るというような考え方ができてくると思う。阪神圏でそういう人材が何人いるのか、そういう人たちは東京にあぶれているのではないかとかそういう見方が民間でいる立場から

すれば見えたりするところがあるので、ターゲットを絞るというところにももう少しぐっとがんばってしてみるというのも一つの手かなと思う。活躍人口になりえる人材と設定してしまうのは難しいかもしれないが、そこが一番重要で、そこが達成しないとこの目標数値にいかないというならそこを狙っていくことも手なんじゃないかと思う。

会長： 今の意見をまとめると、ターゲットを設定するのはよいが、ターゲットとしては広すぎないかという意見が一つ。2つ目が政策ターゲットを設定しながら第4章の目標ごとの取組に適切に反映していない、ぼやけている。例えば、基本目標2のところを修正をしてはどうかという意見。私なりに思ったのは、基本目標2も女性目線ではなく、行政目線で書かれている。単に働く場所があるので来てくださいではなく、ずっと丹波で住み続ける、どういう一生を送っていくことを見せてあげる、情報を出して、来ませんかというところがあるのでは。働くということに関して丹波でどういうキャリアパスを経ていけるとかそういう女性からの視点で基本目標2は書けないかと思った。あるいはターゲットはそのままにしてこれに付け加えて特にこういう人に積極的に働きかけるということを盛り込むとか工夫がほしいと思った。どういうところをターゲットにこんなことをするというのが見えないという思いが委員の中にある。関連して言えば、私が気になっているのは男性の未婚率と晩婚化が高い。そこもなんとかしないといけない。女性も大事だが、男性も大事。

委員： データの紹介になるが、ふるさと回帰支援センターのデータによると移住先の選択の条件でだんとつで多いのが就労の場がある。それが7割になっている。その中でも企業就労を希望するのが7割を占める。農林業をするより地方のゆったりしたところで企業で働きたい人が圧倒的に多い。丹波の企業に勤めて特別な活躍をする生活ではないかもしれないが、野菜をつくりながらこういう生活ができますという具体的な提案ができればいいと思う。

会長： 丹波の場合、子育て環境はよい。だから、県平均より第2子、第3子を高い割合で出産している。働くということもM字カーブが改善している。そちらのほうは成果が上がってきている。子育て環境はいい、労働環境もM字カーブは改善しているので、その前段階の来てもらう、結婚してもらうところが重要なので、政策ターゲットをこのようにしたと理解している。こういう政策ターゲットを設定してそのために何をしないといけないかというところをもう少し考える必要があるのではないかと、そのあたりのご意見をいただいたと思っている。もう一つは、今すぐ

は大変なので、事前にいただいた提案の中で 20 代、30 代の女性にヒアリングする。転出した女性にミーティングをするなどを施策とする。情報収集や意見交換を通じてこういう働きかけが必要ということが浮かんでこないか、浮かんできたらそれを総合戦略の改訂のときに取り込んでいくこともできるのでは。まずは、情報収集することを盛り込んでほしい。今年度中に策定しないといけないので、実質の議論は今日が最後であるが、第 1 期のときも何度か改訂はしてきたので、そういうことを含めての対応は可能かと思う。気になることは出してほしい。

委員： 34 ページで「若者や子育て世代の目線や価値観に徹底して合わせていく」とあるが、私はこれではないと思っている。お互いを尊敬し合って、存在を認め合うことが大事であって、どちらかに擦り寄るとか、どちらかに合わせるといったものではない。私は丹波で一番初めに感じたのは、丹波では若者や女性を軽視されていると思った。大事な場面に呼ばれない、相手にしてもらえない、だいぶ改善はされていると思っているが、そんな感じがして、そういう人たちに急に価値観を合わせていくのではなく、お互いの存在を認め合い、意見を聞き合う、頼りにし合う。海外では老若男女が一緒にまちづくりをしている。70 代、80 代の人が考えたことを若い人を呼んで来て一緒にする。70 代、80 代の人が若い人を頼って見守る。日本でいえば昔の祭りのような状態。若い人しかできないことと年配の人しか分からないことをお互い教えあったり、助け合ったりしてやっていく。そういう関係を大事にできたらと思った。若い人の意見も尊重するが、その人に添うのではなく、お互いに認め合う関係づくりをしてほしい、掲げてほしいと思う。

会長： 今の意見は 48 ページあたりに反映してはどうか。

委員： 自分の子どもも戻ってきて働いているが、就職先を決めるときに福知山市には就職先の選択肢がたくさんあった。こういう仕事がしたいという選択肢が福知山市にあった。また、便利が良く、しがらみのないところで生活したいという思いが若者にはあるのでは。そういうところに若者が集中するのも課題ではないかと思う。もう一つは、女性の活躍について、自治会の中の役員で女性になってもらうのはなかなか難しい。女性の中でそういうニーズはあるのか。女性の方に活躍してもらえる自治会活動ができるのか。

会長： 自治会自体がどれだけ変われるか。役員は大変という意識がある。その意識を変えないといけない。他方で若い人の意識を変えないといけない。実際高齢化が進み、若い世代の負担が大きい社会になってきたときに地縁系の組織なしでは大変だろうということは分かりきっている。そうすると組織も変わらないといけない

し、若い人の意識も変えていかないと両方に働きかけていかないといけない。

委員： より便利なところに住んでいく傾向がある。

委員： 価値観の違いでは。それぞれの価値観の問題で、その人たちがそこを選んだときに気持ちよく住めるかということが大事。そういう受入れがあるかという状態を作っておくことが大切である。

先ほど自治会のことをだめだと言ったのは、家の代表として個人一人が出ていくというやり方をしている限り難しい。尼崎市では各地区で30人でまちの将来を考えるとということをしている。個人でエントリーする。このまちのことを語りたい人いませんか？といったときと自治会で家の代表で出てきてくださいといったときのテンションは違う。うまく集めれば同じ地縁でも集め方によっては若い人も集まる可能性がある。

委員： 人口ビジョンはすごく大事。私の周りにいてくれる、私を支援してくれている、私の仲間の女性たちがこれをみたときになんやねんとなると思う。この取組に書かれていることは大体それぞれの市の審議会と同じようなこと。取組のところは時間切れで出されるのであればそれはいいので、ターゲットを取組にあわせてかえてほしい。

もう一つ審議会の委員にいろんな形でなるときにお願いしているのは、市民の声を吸い上げることが予算化してほしい。これは市の各担当から意見を吸い上げて書かれたかと思うが、生の市民の声から出てくるものすごく良いアイデアとかほんとにほしいものが反映されていない。次にこういうことをされるときは一般の市民を入れてワークショップをして意見を聞いて、行政としてできることをまとめるとかそういうことをやらないといけない。どの審議会に出ても同じようなものができてしまう。時間切れであればターゲットをかえてほしい。

委員： ターゲットをかえるとそれこそ月並みなことになってしまう。ターゲットをどう活かすかということを考えてもらわないと。

私が気になったのは、33ページの活躍人口と関係人口がある。両方とも大事なものは理解できるが、これがどこに反映しているかわからない。特に政策ゴールに関係人口の話がない。まだ活躍人口はニュアンスとして読み取れる。さらに35ページからの新たな視点も大事だが、この新たな視点とはなにか。大事だと思うが、目標ごとの取組のところで配慮しましょうということなのか。書かれていることに異論はないが、それが一体どういう意味合いを持っているのかというところがよく見えない。それと第2章のタイトルが基本的視点と基本目標になっているが、

その中で基本目標の話がない。3つの政策ゴールと4つの基本目標がどうつながっているか。関係人口と活躍人口と3つの政策ゴールと4つの基本目標というのがどういう関係になっているのかという計画のフレームがもうひとつよくわからないので、ここは少し整理をしていただきたい。39ページ以降のところは市のいろんな施策を並べざるをえない。いまさらどうこうというのは大変なので、それはそれで結構かと思う。できれば基本目標の背景と考察のところでは政策ターゲットとの関連、若い女性の転入というのをこういう考え方ではかっていくんだというところ、若い女性を引っ張りこめるような仕事をつくっていくんだというようなことをぜひなんらか文章表現で工夫していただけないか。

副市長：本日いろんなご意見いただいているので、当初何も修正がなければ今回の委員会で最後と申しあげたが、修正をかけないといけないと思うので、委員の皆さんのご都合がつかなら、もう一度会議を開催させていただき、見ていただくという形にしようと思う。

会長：ただ、ここまで煮詰めてきてなので作業として大変かなと思う。

委員：議論をしたいのか、まとめたのかで大きく分かれる。これはこれでその部分に一定のゴールにまつわる文章を付け加えるべきであろうということでおさめるのか、議論を何度しても同じではないか。

会長：もう一回集まって議論してさらに修正するのは難しい。もう一度開催するにしても今日の意見を踏まえて…

委員：私が感じたのは、ターゲットにこれだけの3つのターゲットを出しているのは一歩も二歩も前進していると思う。施策は書きづらいこともあるし、書いたらしいといけないとかいろいろなことが出てくるので、そういう部分でいうと何を書いてもこういう文章になってくると思う。ただ、ターゲットを絞ったことは評価できる。

会長：おっしゃることはわかる。本日いただいたご意見を踏まえて市のほうで修正等の作業をお願いしたい。修正したものに対してもう一度集まって見ていただく必要があるかということ。もう一度集まったとしても軽微な修正になるかと思うが。あるいは今日いただいたご意見を市のほうで受け止めていただいて、修正等をしていただく、お任せしますということにするか。

2つ目は政策ターゲットとしてもここまで踏み込んでのだからという委員の意見もあった。

委員：期待ができるという形でいうとここまで踏み込んだというのが今回の全てかと

思う。

会長： それを具体的にこういう施策にいうところまではできないとしても、委員から提案があったようにワークショップやミーティングをするというのを来年度から行う。そこで出てきた意見とかを今後施策に反映させていくということくらいは盛り込みたい、市のほうにやっていただきたい。

事務局：実際には来年度には女性、若者とか分野別のタウンミーティングは事業として組んでいる。

会長： 施策としてそういうのをやりますというのを入れ込んで。

副市長：第1期と第2期の施策部分の大きな違いは、第1期のときは具体的な施策を書き込んだ。実際できるかわからないが、市民プラザや農の学校など夢のある施策を盛り込もうということで盛り込んだ。それに対して1つずつKPIを設けて結構大変な作業をしていた。今回は具体的な施策を盛り込まずにもう少し抽象度の高い手段を持ち込んで大きな施策をやっていきますという書き方にかえたので、もうひとつながができるのかよくわからない、これで夢のある施策が実現できるのかというそういう部分のイメージをもたれるのかと思うが。

会長： それは前回から説明があって理解している。委員の皆さんがとくに女性委員からご指摘だったのは、政策ターゲットを設定しているにもかかわらず、それが第4章でぼやけている、よく見えない。第4章の基本目標の背景と考察があるので、そういうところに政策ターゲットにあわせてこういうことを考えている、こういうことを進めていこうとか、それぐらいないといけないのではないかと。

副市長：そういう修正は今日のご意見から盛り込もうと思う。ターゲットとの関係とか4つの新たな視点とかそのへんが基本目標の中でどういう関係性にあるかということでもう少し整理する形で修正する。そこから先の手段とかはさわりにくい。

会長： それでいいと思う。その上でそれぞれの施策や手段については今後ある程度見えてきた中で改訂していけばよい。

副市長：手段のところは年度で年度で具体の施策を考えて実現していかないといけないと思っている。

会長： 委員から基本目標の変更ができるかということがあったが、これは第1期からの継続ですよね。だからこれは基本的に変えないでという。

委員： 数値目標もか。

会長： 数値目標は違う。基本目標は一緒。

委員： 今回のターゲットに基本目標は寄り添わないのか。



会長： 基本目標を受けてターゲットがあるという位置づけ。基本目標のほうが上位で広い。

委員： それだったらターゲットが先走りすぎてる。ターゲットをこう決めたら基本目標を修正するなりしないと。だから最初に基本目標はかえられるのかと聞いた。

会長： それは継続なので難しい。私なりに理解しているのは、ターゲットは基本目標なり実現手段なりを貫くとか、それぞれのところで配慮するとかといったような考慮事項というか、考慮すべき視点とかそういうものとして置かれているのだろうと。政策ターゲットというのはまさにそのターゲットに集中するんだということでもない。特にそのあたりに重点は置くけどもということぐらいではないかと理解した。

委員： 4つの基本目標すべてにまずここらあたりから手をつけようというところがターゲットという言葉で出ていると理解すればよいか。

副市長：たとえば魅力的なしごとをつくるという中で誰にとって魅力的なのか、女性なのか、男性なのか、若者なのか。ターゲットによって魅力的なしごとというのはかわるので、そのときに一定のターゲットを絞った以上そこに焦点を当てた魅力的なしごとをつくるということだろうと思う。

委員： そこからまずやり始めるという優先順位の事か。

会長： いや、というより、こういうイメージではないか。魅力的なしごとをつくるというのはご指摘あったように、10代の女性だけにとって魅力的なしごとをつくるのではなく、男性や若者や中高年にとっても魅力的なしごとというそういう広い意味で魅力的なしごとをつくっていきますというのが基本目標。ただ、その中で特に若い女性に魅力的というところに重点を置いてがんばるというニュアンスかなと思っていた。いろんな人に魅力的ということが前提にあって、その中で特にここというイメージではないか。それが背景と考察のところにもう少しメリハリきいた書き方をしてわかるようにしないといけないと思う。女性だけに限って魅力的なしごとをつくるというわけではない。市としてはそこまで割り切ることもできないし、そんなリスクなことはとてもできないということだと思う。特に重点を置く、意識をすることなら、それは市民が読んだときにわかるようにしてほしい。

副市長：施策としてはある程度絞るが、ぎりぎりまで絞るのは施策としてはしにくい。絞るターゲットもあれば、ある程度広いターゲットを持たないといけないものもある。

会長： そういう意味で政策ターゲットの説明のところにもう少し工夫がいるのかなと思う。誤解を招くところだろうと思う。過剰に期待をさせてしまうと後のところで失望させてしまう。

これはある意味今回の総合戦略としては踏み込んだところなので、大事にしたい。活かしていく方向で取組を進める必要がある。

いろいろとご意見もあるかと思うが、私からは先ほど申しあげたことの繰り返しになるが、政策ターゲットを若い世代の女性というのをもう少し絞ったほうがいいのか、どういう取組をすれば効果的なのかということをも今の段階で考えるよりはそういう人たちのニーズなり、意見や価値観を把握していく、当事者にアイデアとか意見を出してもらおう。来年度はミーティングを計画されているので、そのあたりの成果を次年度以降のこの会議に情報提供していただきたい。委員にも関わっていただきたい。

#### 4 今後の予定

会長： パブコメは修正してやりましょう。パブコメにかけるものは私と副会長にお任せいただけますか。

（「異議なし」の声あり）

会長： パブコメの意見も踏まえて再度集まって見てもらうかは相談しましょう。ここで決めるのはできないということでご了承いただけますか。

委員： パブコメした後のものは必ずそれを盛り込んだ最終のものは見ておかないとだめでは。

会長： パブコメでこういう意見が出てきましたというのをおわせてここで検討するというのが普通だということですよ。

事務局：最終案を確認していただくのに会議で確認していただくか、大きく変更がなければ書面で送りして確認してもらうなど方法はいろいろあるかと思う。最終案についてはおつなぎすべきだと思う。

会長： パブコメにかけるものは私と副会長にご一任いただくことと、パブコメの結果も含めた最終案について再度集まるか、送りして目を通していただくかということも私と副会長と市のほうで相談するというところでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

事務局：まず修正作業をさせていただきたい。1点目は、関係人口と活躍人口と基本目標との関係性の整理、2点目は、政策ターゲットの書き方の修正と文章の中で価値観を徹底して合わせていくというところの表現の修正、最後にターゲットが

取組のところでぼやけていくという点の修正をさせていただきたい。

## 5 閉会